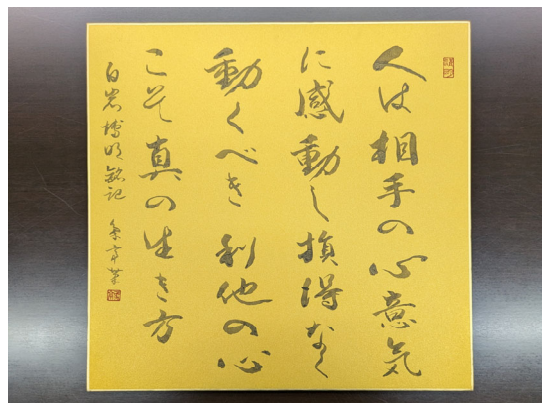


右の写真(金色の色紙)について説明いたします。

私的なことで恐縮です。私の妻が愛媛県喜多郡内子町にある「肱南書学院」の広島・井口教室で習字を習っています。9月中旬、内子町で行われた「鍊成会」に私も参加し、様子を見守っていました。その合間に、主宰する生口象亭先生に「人生意気に感ず」の書を所望したところ、快くお書きいただきました。先日、その書が掛け軸となって送られてきました。

私は感動のあまり、すぐさまお手紙を送り、お礼の言葉、なぜ「人生意気に感ず」を選んだのか、その意味を「人は相手の心意気に感動し損得なく動くべき。利他の心こそ真の生き方」としてこの言葉を大切にしてきた想い、今後の決意などを記しました。その数日後、右の色紙が送られてきました。身に余る象亭先生のお取り計らいに、まさしく意気に感じた次第です。



「人生意気に感ず」

12月1日(日)、いよいよ広島修道大学の学校推薦型選抜(附属校)専願入試を迎えます。今年度は85名の生徒がチャレンジしますが、選抜方法は、出願書類に基づいた面接試験のみです。面接試験だけ?と思われるかもしれませんが、生徒は高校3年生の1学期までに一定の基準(評定平均値3.5以上であることや様々な取り組みなど)をクリアして推薦資格を得て面接試験に臨んでいるのです。

しかし、昨年、一昨年と残念ながら不合格となった生徒がおりました。提出した志望理由書について主に質問しますと大学側から聞いていますが、志望理由書との整合性を欠いたという理由で不合格となってしまったのです。ですから、生徒は真剣な表情で面接練習に臨んでいます。また、進路支援部でも面接対策として今年から「面接シート」を作成しました。面接練習をやりっぱなしに終わらせるのではなく、相手をしていただく先生方からどれぐらいの評価をもらったか、課題は何かなど、客観的な評価を重ねることでスキルアップを図ろうというねらいです。

私も可能な限り面接練習に協力しています。おおよそ10月初旬から行っていますが、その頃から「校長先生、面接の予約をお願いします!」との広島修道大学以外の大学や専門学校を受験する生徒も校長室に入れ代わり立ち代わり訪れました。昼休憩、放課後と11月初旬から本格的に練習が開始されましたが、メインは広島修道大学の受験者です。一人で3回ぐらい練習する生徒もいれば、「出直しです。○曜日にまたおいで」と促す生徒もいます。緊張して震えている生徒もいます。感極まって涙する生徒もいます。

この生徒たちのために、一所懸命に取り組んでいる生徒のために何とかしてあげたい。そう思いながら指導をしています。みんな、頑張れ!!

11月25日(月)、学校朝礼がありました。このたびは高校2年生全員が体育館での朝礼となり(順番に参集します)、それ以外の生徒は教室にてzoom配信によって実施しました。

「今年もあと1か月となりました。体調を崩すことなく、しっかりと頑張りましょう」と前置きした後、この日は「挨拶の大切さ」について話しました。本校では建学の精神「報恩感謝・実践」の想いから挨拶を大切にしています。そのことから「日本一、挨拶ができる学校」を目標の一つに掲げています。改めて、次のような話をしました。

挨拶は相手があつての行為です。

したがって、挨拶は相手を認めたり、相手に自分の心を開いたりする行為と言えます。

相手を笑顔にしたり、会話が生ずることで尊敬や親愛の度合いが深まり、信頼が育まれます。

だからこそ、相手の目を見て、身体を向けて挨拶をすることは、とても大切です。立ち止まってする挨拶は、なお、素晴らしいかぎりです。

挨拶をしたけど、目を見ない挨拶、身体を向けない挨拶は、相手に無関心や敵意を示すと受け取られ、誤解を招きます。勿論、ポケットに手を入れたままの挨拶も同様です。

いい挨拶の習慣ができている人は継続しましょう。出来ていない人は、協創にいる間に、大学や上級学校に進学する前に、社会に出る前にいい挨拶の習慣を身につけましょう。

「日本一、挨拶ができる学校」にするのが、本校の目標の一つです。

挨拶一つで人生が変わることもある。挨拶はそれぐらい大切な行為なのです。

これも「人生意気に感ず」の一つと言えるでしょう。たかが挨拶、されど挨拶なのです。